

市政懇談会での市長「市政報告」

みなさまこんばんは。市政懇談会「タウンミーティング」にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

市政につきましては、ひとかたならぬご支援、ご協力をいただき、また各事業、イベントなどにみなさまの積極的なご参加を賜り厚くお礼申し上げます。

平成 18 年度のスタートは、地球温暖化が影響しているのでしょうか、とにかくお茶の芽が出ない、量が少ない。そして成績が悪いというお話をいただきました。また、私は 5 月の大型連休に魚族の供養祭を兼ねまして「なぶら市場」にまいりましたところ、年間 70 トンくらいあるカツオの水揚げが、まだ 7 トンくらいしか揚がっていないということ聞きまして、今年は厳しい年になりそうだという不安を抱きました。

まず「自助」「共助」の確立が防災の基本

また、だいぶ梅雨も長引きました。気象庁の関係者とお話しする機会があり、日本列島各地の集中豪雨の原因は何かと伺ったところ、「現在、年間の降雨量は大幅に減っているが、局地的に降る地域がでてきている」ということで、今一度この自然災害の恐ろしさというものについて、的確な情報を掴んでいかなければなりません。

合併 2 年を振り返ってみて、やはり合併元年におきましては、台風による被害がどうしても私の頭の中から離れることができません。集中豪雨で山が崩れたり、停電したり、家が倒壊し行方不明の者は今なお見つかっておりません。台風の恐ろしさを痛感いたしました。そして「台風は上陸すれば風速が衰える」という概念をもっておりましたが、一向に勢力が衰えない台風でした。行政といたしましては、このような自然災害につきまして現在、防災マニュアルなどを作らせていただいているところです。

9 月 1 日には、地域のみなさまの積極的なご参加をいただきまして、総合防災訓練が実施されました。御前崎運動場を使用し、自衛隊などにご協力いただいて大掛かりな防災訓練を行う予定でしたが、雨天で実施出来ませんでした。しかし、自主防災などそれぞれの連携がしっかりとできた防災訓練であったと思います。とにかくこの総合防災訓練におきましては、自分で自分の身を守る「自助」、身の回り、近所の人達がお互いに助け合う「共助」、そして行政との連携をとっていく「公助」が重要な防災の基本ではないかと思えます。この東海地震につきましては、100～150 年の周期で今まで高い確率で起きていたというデータもありますが、すでに今年で 152 年目を迎え「いつきてもおかしくない」ということです。どうかみなさまも、家庭内の家具やテレビなどを固定し、地震に備えていただきたいと思えます。

医師の働きやすい環境をつくろう

2点目といたしましては、御前崎総合病院の医師不足の問題です。私は10年前、この病院の医者が余るのではないかという新聞記事を見たことがあります。新研修医制度が始まり、医師が大学に引き上げられ、現在地方の病院が本当に医師不足に悩んでいるところです。私も県あるいは浜松医大に薫をも掴むような気持ちでお願いに伺い、医師の確保に努めてまいりました。そんな時に怪文書的なものが出回り、医師を確保したいと一生懸命努力している中で、「本当にみなさまが病院を必要としているのか」というひとつの不信感にとらわれた時期もありました。しかし、今年の4月から大橋院長をはじめ、内科の医師5名に着任していただくことになりました。今までの病院長でした横山医師につきましては、総合保健センターの所長をお願いして、現在も脳外科を担当していただいております。

しかし、非常勤であります整形外科、耳鼻咽喉科、眼科、小児科については、救急診療など市民のみなさまに大変ご迷惑をおかけしている状況です。現在、近隣の市民病院などとも行政医療連絡会を行い、お互いに連携しながら状況の把握をしているわけですが、やはりこの病院も医師不足で、救急医療の対応を何とかしてもらえないかというような非常に強い要望があります。今後、病院と病院の連携、また開業医との病診の連携をとって、少しでもみなさまにご迷惑をおかけしないよう改革を進めてまいりたいと思います。9月5日の静岡新聞に、市立御前崎総合病院の平成17年度決算で、外来患者 27%減という記事が大変大きく出ておりました。新年度に入ってから、医師の補充や新型の高速螺旋CT装置の高い利用率などで大変明るい見通しが出ているものの、やはりすべての医師が揃っていないという状況の中で、まだまだ満足のいく病院ではありませんし、みなさまにご不便をおかけしているという状況下にあることは間違いございません。今後も医師の確保につきまして努力をしてまいります。そしてみなさまも医師が来やすい環境づくりにぜひご協力いただければ非常にありがたいと思っております。

4市が一体となってプルサーマル計画に対応する

3点目といたしましては、原子力発電所のプルサーマルの問題です。昨年9月13日に、中部電力から資源の少ない我が国のプルトニウムの再利用を進めたいという話をいただきました。そして、中部電力には各戸に説明をしていただき、議会との話し合いの中で1月10日に、国に安心・安全の確認を要望しようということになりました。そして1月16日に菊川、掛川、牧之原市の四市対協の席で協議しお願いをいたしました。しかし、周辺三市から地域格差があまりにも大きすぎるという意見が出されました。御前崎市は、ケーブルテレビ、下水道工事等、完全に他市とは大きく進んでいる。特に地頭方地域は御前崎の先端の人より我々の方が発電所から近いということで、もっと地域整備がなされるべきだという大変強い意見が出ました。計画について、まず国の審査を受け2月28日に再度四市対

協でご理解をいただいたところです。これから1年あるいは1年半かけて国の厳格な審査を受け、その結果をいただけるということです。中日新聞でも、原子力発電所プルサーマル計画交付金をめぐり、四市が反発しているというような記事が出ていましたが、四市が一枚岩となってプルサーマル計画を取り組んでいかななくてはならないと思っております。また国から交付金の話も出ていますが、金額や配分なども決まっておきませんので、今の段階では協議不足だということを国に伝えております。

将来の安定財源確保のため「企業誘致」に取り組む

一般会計予算は昨年度を上回り、平成18年度は186億円でスタートをしました。これは特に平成17年1月から営業運転しています5号機の固定資産税が大変大きなウエイトを占めています。しかし、この固定資産税が年々償却していくことを考えますと、計画的な市政運営と行政改革に取り組んでいかなければならないと考えております。また議会におきましても、9月定例会で2億円の補正をお願いいたしました。この9月定例会は、平成17年度の決算審査が主な議題です。これから財政が非常に厳しくなっていく中で、「行政改革大綱」を作成させていただきまして、現在検証をしながら進めていきたいと考えております。将来の財源を確保するため、新たに企業立地室を設け、御前崎港を大いに利用しながら企業の誘致をセールスしているところです。また、高松地区に出光興産という会社が新たに決定いたしまして、来年度からスタートできると聞いております。出光興産がきて関連企業も進出したい、また御前崎港の周辺に進出したいという企業もございます。特に白羽にあります工業団地にぜひ入ってほしいと色々な話を進めておりますが、どうしてもこの地域に工業用水がないということが大変大きなマイナス面であります。しかし、現在掛川、菊川、牧之原、御前崎の4市で東遠工業用水道企業団をつくり、来年度から大井川用水の農業用水を工業用水として使えるよう進めているところです。浜岡地区につきましても、今までどおり大井川用水の両岸幹線を使わせていただき、御前崎地区につきましても、牧之原畑総の水を使わせていただく計画になっております。

しかし、スズキ自動車は牧之原市に小型車工場の建設を発表し、大量の水を使いたいというお話もございます。スズキ自動車には、御前崎港を利用させていただいているということもありまして、あまりご無理も言えませんが、牧之原畑総の水をこの御前崎市に流し、工業用水として利用していく方向で来年度からスタートしたいと思っております。

また、平成21年開港の「富士山静岡空港」とともに、第1・第2東名をあわせ、現在150号の4車線化も急ピッチで進められています。特にこの御前崎港に来るトレーラーが狭い道路では通れないということもあり、4車線化が進められているわけですが、高規格道路の完成とともに、御前崎港を中心としたこの地域一帯が大きく伸びていくのではないかと期待をしているところです。また、外国航路につきましても、それぞれの企業の進出をいただく中で大変明るい見通しも出てきております。特に地元の企業も御前崎港を利用しよ

うという意見もいただいておりますが大変ありがたく思っているところです。

子どもの健全育成と福祉の充実

さて、今後の大きな問題として少子高齢化への対応です。やはり少子化問題、子育て、高齢者の福祉問題には限られた中ではありますが、手厚い財源配分をしていきたいと思っています。特に市の宝である子供たちをしっかりと磨き、輝かせて行きたいと思っております。昨年度、支所に教育会館を設置し、県の指導をいただき学習指導支援員、特別支援教育補助員により適応指導教室「サンルーム」で、登校拒否の子供たちに学ぶ場を与え指導をしているところです。また、最近子供たちの中で読書離れが増えていますので、今年度から「なぶら子ども読書活動」と題して専門職員により、小さな子供から成長にあわせて読書の推進をしています。

また、御前崎市にはマリパークや海もございます。御前崎海水浴場は、今年度も3年連続で水質「AA」という高い評価をいただいています。この利点を活かしながら、子供たちにも海洋スポーツを教育の一貫として取り入れていきたいと思っております。

毎日のように子供が大人をあやめる、大人が子供をあやめるというような事件が新聞、テレビで報道されています。市では、犯罪防止のために、地域のみなさまにサポート隊をお願いしパトロールしていただいております。今年度から、警察官OBを2人雇用いたしました。現在市内のパトロール、またそれぞれの保育園・幼稚園・小学校・中学校へ出向いて防犯教室を開いております。

高齢化につきましては、全国で65歳以上の方が4人に1人とされており、この御前崎市についても、すでに21%を超えています。今年も市内117名の米寿のお祝いに回りました。おひとりだけ腰が悪くて寝たきりでしたが、あとのみなさまは、お若いなと思うほど元気なお姿でした。「わざわざ来てくださってありがとう」というありがたいお手紙などをいただきました。高齢化が進みますと、介護や支援を求めていくようになりがちです。しかし私は、ひとりでも多くのみなさまに元気で長生きしていただきたいと思っております。それには、バランスのとれた食事をとり、適度な運動をしていただくことが大切です。今後、市といたしましても高齢者の福祉に力を注いでいきたいと思っております。また、今まで御前崎総合病院の隣にあった健康長寿課を原子力広報研修センター内へ移し、福祉事務所、社会福祉課、包括支援センターを一箇所にまとめ、高齢者や弱者の方の福祉の充実に努めております。今年の4月、人事異動をさせていただき、今年度は6人の部長体制で市政を運営し、きめ細かいサービスを目指しています。

荒廃農地から優良農地への転換を試みる

最近の農業を取り巻く情勢は、輸入農産物の増加、農産物価格の低迷に加えて担い手の

減少と従事者の高齢化による遊休農地が増加しております。

平成 19 年以降、定年退職を迎える団塊の世代の新規就農希望者に対して、農地を提供していこうとの試みや、基盤整備を行い、使いやすい農地として再生を図るなど多方面から対策を検討しております。また、佐倉地区、新野地区、合戸地区で肥育農家の方が耕作放棄農地に簡易な電気柵を設置し、その中に繁殖和牛を放牧し雑草を食べさせる試みも行っております。肥料などの経費節減を図るとともに雑草対策にも有効であり、荒廃農地対策として期待しているところです。

よりよいまちづくりに向けて

今まで高齢者、あるいは弱者に、「たらい回し」しないで欲しいというお叱りを受けたこともあり、今年から、市民の皆様が複数の用務で役所に来ていただいたとき、窓口でお待ちいただければ職員がそちらへ出向いていく「ワンストップサービス」を実施しています。お客様へのあいさつやご案内など親切丁寧に務めてまいりよう徹底いたしますのでよろしくごお願い申し上げます。

8 月の「御前崎の花火」につきましては、昨年より 5 千人多い 12 万 5 千人の方にご来場いただきました。またその中で、若者を中心とした海の男の神事「だっくら」や高齢者を中心とした「八丁櫓」など、文化、伝統行事に積極的にご参加いただき感謝申し上げます。海水浴場については、お陰をもちまして昨年同様、3 万 6 千人の海水浴客に来ていただきました。関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

また、平成 18 年度をもちまして新野の農業集落排水事業が完了いたします。これから御前崎地区の下水道事業ですが、御前崎、白羽両地区で下水道に加入したいという強い要望をいただきましたので、今後どのように進めるか計画に入らせていただき、国、県の補助についても調査しながらみなさまにご報告をしていきたいと思っております。

海岸の浸食問題については、湖西市から御前崎市までの西部市長会でも「とにかく遠州灘の海岸浸食がひどい」という話が出ています。松くい虫の対策と同様に何とかしなければいけないと国、県に陳情しながら、足並を揃えてこの海岸をしっかりと守っていこうと進めています。

平成 18 年度の市政の一旦を述べさせていただきご挨拶とさせていただきます。